CSR 担当者と CSR 経営者のためのニュースレター
CSRmonthly

木内 孝（株式会社イースクエア代表取締役会長）

最も大切なことが抜けている日本

人に紹介される時に、何と言われたら最も嬉しいか。

考えたことがおありですか。私が耳にした最高の賛辞は、「この方ほど人間愛に溢れた方は居られないと思います」という短いご紹介です。高名ながん専門のお医者様が、「私は官僚にこんなに人間愛に溢れた方が居られるとは思わなかった」とおっしゃって、40 歳半ばの現環境省、当時は財務省のお役人を紹介されました。ビックリしましたが、同時に思わずご紹介されたご本人にジッと視線を向けてしまいました。迫力のあるご紹介でした。

ことほど左様に「人間愛」の三文字はなかなか使われません。もっと使う機会を見つけたいものです。それと同時に人間愛について考え、そして話題にしたいと思います。

私は自分の国、日本が大変恵まれているのに、なぜ多くの方々にご納得頂ける将来展望を示すことができないのか、と悩みます。日本には少なくも５つの際立った特徴があります。

第１に日本人。１億２千万を超える人数は少し多過ぎるとは思いますが、我々日本人はどこへ行っても他の国々の方々に引けを取ることはありません。私は欧州で生まれ、育ち、そして北米で教育を受け、勤務して四半世紀を過ごしましたので、自信を持ってそのように申し上げられます。

第２は自然。日本の自然は素晴らしいと申して異議を唱える人が、世界にどのくらいおられるでしょうか。

第３は歴史。年が明けて今年は紀元 2675 年、色々ご意見をお持ちの方々がおられますが、神武天皇以来、長い年月がつづられている珍しい国です。

第４は食べ物、今や日本食は世界中、どこへ行っても好評、嬉しいじゃありませんか。

そして第５に技術・技能、モノづくりについてです。極めて精巧、精密、複雑怪奇な技術で裏打ちしながら、創意、工夫を重ねながら慎重にモノづくりを続けています。

企業の魂・人間愛について考える

私たちの国に何が抜けているか、何が欠けているかをまさに考えようとしている時にフィリップ･コトラ―の「私の履歴書」が全国紙に 30 回にわたって掲載されることになりました。

経済・産業の大きな割合を占める大中小の企業にとって、最も大切なのは業績向上と顧客の価値・満足を創造することで人々の生活の改善を目指すという一節で議論は始まります。

貧困解決や平和の達成が続きます。思索・議論の対象を経済･産業の世界から、より広く場所･人･思想･信条にも広げ、貧困・飢餓・疫病・環境破壊にもメスを入れ、より良き社会への変革が可能なことを証明しようと議論は続きます。我々の世界が資源を使い過ぎた結果、後に続く世代がそれより低い生活水準を受け入れざるを得なくなる恐れはないか。将来のモノ不足は現在の余剰と同じくらい問題であるとまで言い切っています。

いよいよ問題の核心に入っていきますと、企業の目的は顧客の創造である、企業は社会のインフラを利用して収益を上げ、社会から多大な恩恵を受けているのだから、その見返りとして企業は社会に奉仕しなければならないという論理の展開が待ち受けています。アメリカは余りにも物質主義と自己中心主義に偏り過ぎた､｢企業には魂が必要だ｣と｢企業魂論｣が登場していることに我々は注目する必要を感じます。

2011 年にニューヨーク・エール大学で講演する機会に恵まれ、自分中心の顧客の要求にばかり耳を傾けている結果、今日のような問題の多い社会が誕生したのだ、自分中心のお客様の声より大切な声があることに注目して欲しいと力説し、拍手喝采を頂きました。これからは「人間愛」に貫かれた「足るを知る心」と「利他主義」を企業の魂と考え、日本の国づくり、地域づくりに邁進しようではありませんか。

【きうち・たかし】2000 年に P.D. ピーターセンと株式会社イースクエアを設立、世界に点在する仲間のネットワークを動員して「サステナビリティの科学的基礎に関する調査」を始め幾多の調査・研究を纏め、国連・EU・OECD などでの発表・講話を重ねている。環境問題の最大の敵は「無関心な人達」――大学で長年講義をしていた時に「先生は何をガタガタ言っているの。私たちはハッピーなのよ」と言われたことが耳鳴りのように聞こえて来るという。この世論への対策を 2014 年中に実施する計画。謙虚・倹約・健康の「三ケン」を旨とする。

© alterna, all rights reserved.　本ページの無断複製やデータ転送は社内外を問わず固くお断りいたします。